



第一芙蓉法律事務所
弁護士
木下 潮音様

第一東京弁護士会ご所属。
2013年4月より、荏原製作所CSR委員会アドバイザーをご担当いただいています。
企業、従業員、労働組合の関係を幅広くサポートし、企業の社会的価値を向上させていくことを信条としてご活躍されています。

荏原グループCSRレポート2016の特徴は、トップメッセージで中期経営計画E-Plan2016 2年目の振り返りとして前田東一代表執行役社長が述べられています。2019年度の在りたい姿の一つとして掲げられている「性別、国籍等によらず個々の従業員の能力を伸ばし最大限に発揮させるための環境の整備及び発揮された能力に相応しい対価で報いるための制度導入」に向けた活動と、2016年度末までの中期経営計画に掲げている基本方針「グローバル事業展開を支える経営インフラの拡充を図ること」の報告に焦点が絞られていることです。

そのため、従来の報告書に比較して、人権、労働安全、人材マネジメント、グローバル人材の活躍推進、ダイバーシティ推進及び労働環境に関する記述と情報が充実し、荏原グループにおける従業員の働き方の現状の問題点の認識とその将来に向けた改革の方針が明確になりました。ダイバーシティや働き方改革は、わが国のすべての企業が取り組みを求められているところです。特に、多国籍に事業を展開する荏原グループにおいては、より先進的な対応が行われていると主張されたい気持ちがあるはずですが、率直に「当社には日本人男性の視点で築かれた業務の進め方や風土が根強いことがわかりました。」(トップメッセージより)と現状の弱みを認めて、改善の決意が述べられています。

CSR報告書が企業の成果を非財務情報として開示する役割を担うものであることを十分に認識されたうえで、PDCAのスタートポイントを明らかにし、改善の目標を明示されたことは意義深いものと評価しています。

また、経営インフラの拡充に関しては、リスクマネジメントについて2015年度の目標・成果が詳細に報告されるとともに、直近の自然災害リスクである2016年4月以降の熊本地震への対応が、時間経過に沿って明らかにされています。この記述から改めて荏原グループの本業が社会インフラの維持復興と環境対策等にあり、地震や風水害に見舞われることが多い現代日本を支える役割を果たされていることが明確になります。このような社会に対するインパクトのある事業の拡充を図ることは社会や投資家等のステークホルダーからの信頼をより高めることであり、是非、これからも荏原グループの経営の拡大が望まれるところです。

CSRIは企業の事業活動の在り方そのものであり、企業が事業活動を離れてあえて特別な善行を積むことを指すものではないと考えます。これからもしっかりと経営計画に組み込まれたCSR活動を推進されて、その報告が継続的になされることを期待しております。

2016年版のCSRレポートの作成に当たっては、E-Plan2016の目標に照らして、これまでの2年間で達成したことを振り返り、今後の課題を確認する必要があると考えました。

グループ全体として掲げた2020年にありたい姿のうち、「性別、国籍等によらず従業員の能力を伸ばし最大限に発揮させるための環境の整備」は一定の進展を見せていますが、日本の産業社会に深く根付いた男性中心の企業文化の変革は容易ではなく、引き続き働き方改革として推進していく必要があります。これは単に従業員のための問題ではなく、積極的に多様性を取り込んで、より広範な社会ニーズに応えていくことでさらなる成長が可能になるという視点から担当部門とともに事業部門への展開を推進していきたいと考えています。

「成長市場を積極的に取り込みグローバルに存在感を発揮する」に当たっては、海外グループ会社が直面する事業上のリスク、内部統制上のリスクを管理するためのリスクマネジメントガイドラインおよび内部統制自己点検ガイドラインを策定し、定着を図ってきました。これらは、今後、荏原グループ各社がグローバルに社会的責任を果たしていくうえで、経営インフラの一つとなりますので、両ガイドラインの一層の質的向上を図るとともに、新たにグループに加わる会社への展開を継続していきます。

さらに、「水と空気と環境の分野で、優れた技術と最良のサービスを提供し、広く社会に貢献する」という荏原グループとして果たしていくべき社会的責任を具体的に執行役CSR行動計画として定め、進捗管理を進めてきました。これについても今回のレポートで報告いたしました。

荏原グループは、いついかなる時も社会・産業・くらしを支えることを社会的使命としています。事業を継続す



内部統制・リスク管理統括部長
中山 亨

ることこそが社会的責任であると認識し、グループ挙げての事業継続計画の策定に注力しています。これに関しては、今春発生した熊本地震の際に全力で早期の事業再開に努めた経験を今後予想される震災等のリスク管理に予防的に生かすことで、社会的責任を果たして参ります。

現在、国際的には、産業界としてSDGsなどの指標を事業機会とリスクの評価の両面で参考にしながらグローバルな社会的課題解決に取り組んで行こうとする動きが見られます。荏原グループとしても、社会的責任を継続的に果たし、事業活動として将来の市場ニーズに応えていくことが持続的な成長につながっていくという観点から、引き続きCSR活動の推進を図って参ります。

企業が果たすべき責任の重要な要素として、情報の公開が求められています。荏原グループとしても、CSRレポート、統合報告書、ウェブサイトなどを通じて引き続き透明性高く情報公開を進めていく予定にしております。今回の報告を通じて荏原グループの社会的責任への取組についてご理解いただけることを期待しています。